

湿害・高温に負けない大豆栽培を目指して

南加賀農林総合事務所

南加賀地域は、約120の経営体が大豆栽培に取り組んでおり、作付面積約500haと県内でも大豆生産が盛んな地域です。しかし、近年の大雨や猛暑など極端な気象変動による収量低下が著しく、生産意欲が減退しています。

そこで南加賀農林事務所では、JA、全農いしかわと連携して、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構から講師を招き、「大豆の収量増に向けた技術について」の講演会を開催しました。

講演会では、大豆の乾湿害には「東北・北陸型」と「関東・九州型」があり、近年の石川県の気象は両方の混在型であるとし、初期（梅雨時期）の湿害と子実肥大期の乾湿害の対策が重要であると説明がありました。また、衛星センシングを活用した畝間かん水システムその他、国外の品種を交配母体として利用した多収品種などが紹介されました。参加者からは、畝間かん水の増収効果や品種ごとの根粒菌の違いと増収効果について活発な質疑が行われ、大豆の収量向上に向けた意欲の高まりが伺えました。

今後は、衛星センシングによるかん水支援システムを活用しながら、畝間かん水などの実施を促し、大豆の収量向上に取り組むこととしています。



大豆の収量増に向けた講習会

問い合わせ先：農業振興部（0761-23-1703）